

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 284 回 「真理」を学ぶ、渡り鳥のV字編隊

2008.11.9

冬を越すために南に向かう渡り鳥の群れが、V字型の編隊を組んで飛んで行くのを見たことがあるだろうか？ 何十匹、何百匹がみな同じ方向を向いて、同じ速度で、常にV字型を形成しながら進んでいく。その姿を見てある科学者が、「渡り鳥がそんな形で飛ぶのには訳がある」ことを発見した。その驚くべき理由とは...

- ・ 鳥が羽ばたく時に、後続の鳥に上昇気流を作り出すことから、編隊で飛ぶと、単独で飛ぶよりも71%も遠くまで行ける。
- ・ 先頭の鳥は疲れるとV字型編隊の後尾に回り、別の鳥と先頭を交代する。
- ・ 後の鳥はガーガーと鳴いて、前の鳥を励ます。
- ・ 編隊から脱落しそうになっても、一羽で飛ぶと抵抗が大きいので、すぐに群れに戻る。
- ・ 群れの一羽が病気やケガで編隊から脱落すると、二羽の鳥が援助と保護のために付き添って地上に降りる。この二羽は脱落した仲間が回復するか死ぬまで付き添い、その後新しい群れに加わるか、独自の編隊を作って元のグループに追いつく。

長い年月を掛けて培われてきた進化であり、生きる知恵な訳だが、人間の実社会の世界でも参考になる話である。

(参考:「社内ベンチャー創世記」<http://winwinproject.livedoor.biz/archives/29967935.html>)

互いの風圧を助け合い、先頭ポジションを交代し、励ましの鳴き声をかけ合い、編隊を守り、傷ついた仲間を見守ることで、彼等は単独で飛ぶよりも大きな力を発揮している。これを会社経営に当てはめて考えた例として、**斎藤一人氏**は、「**渡り鳥経営**」としている。

最近は何でもかんでも「成果主義」、隣にいるのは同士でなく競争相手。自分が実績を上げ出世するためには、同期をいかに蹴落としていくか...中小企業といえども、社内の雰囲気ギクシャクしがちな最近の企業風土の中で、この渡り鳥の生態行動は、忘れかけていた多くの「真理」を教えてくれる。

まず、方向は同じベクトルに向かっているのである。誰一人、よそ見をしないしわき目も触れず、同じ目的を目指し、迷わず邁進している。お互いの顔を見合うことはない。彼らが見つめるのは、最終目的のみである。誰もが一途に目的を目指している。

スピードはみな同じ。一人飛び抜ける「突撃タイプ」もいない代わりに、「脱落タイプ」もなく、最も適応した無理のない速度で進んでいく。決して中途半端に休むことなく、効率的な速度で進む編隊は、見事に計算されつくされた行動である。

スタミナの有効活用とより高度化した実績を上げるためのV字型編隊、つい遅れがちな仲間を、お互いに励ましあって、この効率化した編隊を維持させようとする。協調と協力の精神、それが「競争」風土を作るのではなく、みんなで力を合わせ、一緒に創り上げるいわば「**共創**」の風土を醸成する。我々が忘れかけていた「真理」であろう。

渡り鳥の賢い生態は、今時の我々に多くの警鐘を鳴らしているように思えてならない。